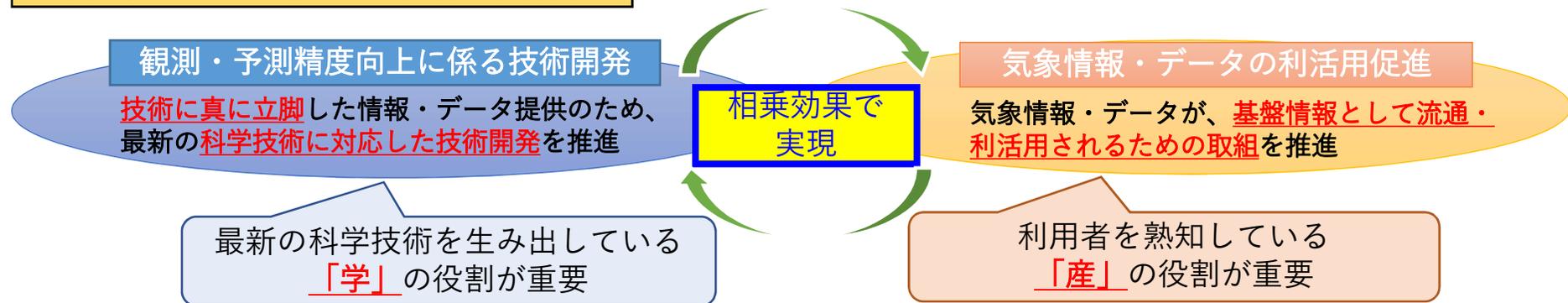


「気象業務における産学官連携の推進」 (提言概要)

- 急激に変化する社会環境や増大・多様化するニーズへの的確に対応していくにあたっては、気象業務全体の社会に対する効果を最大化していくことが重要。
- そのために、気象業務がどのような方向を目指し、連携を推進していくために気象庁がどのような施策を講じていくべきかについて、今次の気象分科会において審議。

気象業務の方向性と産学官の関係性



AI等関係する科学技術の進展や気象情報・データ利用の裾野の拡大といった気象業務の広がりを踏まえつつ、技術やノウハウを共有し、**産学官の関係者が総力を結集**していくことが必要

連携を推進していくための施策

産学官連携をより一層強化し、**気象業務による社会への貢献を最大化**するため、以下の施策を実施

- ① 産学官の対話の場の構築
- ② 人材の交流や育成
- ③ 産学官共同事業の推進
- ④ クラウド技術を活用したデータ共有環境の構築

連携により、産学官における観測や予測、技術開発や利活用促進といった気象業務の取組の**相乗効果**が一層期待できるとともに、**効率的なリソースの活用**が可能

「気象業務における産学官連携の推進」 (提言概要)

- 産学官における観測や予測、技術開発や利活用促進といった気象業務の取組の**相乗効果**が一層期待できるとともに、**効率的なリソースの活用**を可能とするため、技術・ノウハウやデータの共有に関する施策を実施。

①産学官の対話の場の構築 ~役割分担から連携の強化へ~

- 「気象業務産学官連携推進協議会 (仮称)」を構築
- 気象庁の中長期にわたる業務計画を関係者と共有し、気象業務全体の諸課題について関係者間で協議



産学官の密な情報共有と相互理解により連携を強化

②人材の交流や育成

~技術、ノウハウの保有から共有へ~

- 産学官の間の人材交流等により人材の流動性を向上
- 共同での研修の実施やインターンシップ制度の充実

③産学官共同事業の推進

~独自の事業から連携事業へ~

- 産学官が連携して観測や技術開発、新たな市場の開拓等の取組を実施

産学官が保有するリソースを最大限活用

④クラウド技術を活用した新たな気象情報・データの共有環境の構築

~データの配信から共有へ~

- クラウド技術を活用した新たな気象情報・データ共有環境を構築
- クラウド環境上での気象庁プログラムの利用等についても検討

※データの共有に係る経費について利用者にも応分の負担を求めながら構築

基盤となるデータを共有し、産学官協働による技術開発等を加速

